

学年	2 学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	地理歴史・日本史 A・3 単位
使用教科書	現代の日本史 改訂版 (山川出版社)		副教材	最新日本史図表 四訂版 (第一学習社) ゼミナール日本史 改訂版 (浜島書店)	

1 科目の目標

近現代の日本の歴史について、政治・社会・産業・文化などさまざまな視点から学び、合わせて、世界との関わりの中から「世界の中での日本の在り方」を考える視点を身につける。

2 学習について

(1) 授業形態
教室での授業

(2) 学習方法

①予習・復習の方法 予習：教科書をよく読み、該当部分の政治・社会などの流れを理解する。
復習：ノート・資料集を読んで要点を押さえ、問題集などで理解度を確認する。

②授業における学習方法 教科書・資料集で該当箇所を確認しながら説明をよく聞く。板書事項を確実にノートにとり、必要に応じてメモを加える。

③家庭学習のポイント さまざまなテーマにおける出来事の原因・結果を一連の流れとして捉え、その流れを横断的に結びつけて理解する。

④担当者からのアドバイス 歴史は過去の出来事ではあるが、現在の事柄につながっている。また他教科の学習にも関連する。歴史のみで完結することなく、いろいろな事柄に興味・関心を持つ。

考査	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 第1章 開国と明治維新	ペリー来航に始まる幕末期の大変動を幕藩体制の崩壊期としとらえ、また、その後の明治維新、近代日本の建設について学ぶ。	15	定期考査 レポート等課題
	I 期末 第2章 近代国家の形成と発展	政府の強力な中央集権体制への移行、その過程で盛り上がりを見せる自由民権運動と立憲国家の樹立について学ぶ。また日清・日露戦争の経緯と影響を学ぶ。	18	定期考査 レポート等課題
	II 期中間 第3章 産業化の推進と国民生活の変化 第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	第一次世界大戦・ロシア革命という世界史的な激動期を日本はどう対処しようとしたのか。明治憲法下での民主化の流れを、国民と政府がどう取り入れたのかを学ぶ。	24	定期考査 レポート等課題
後期	II 期末 第5章 第二次世界大戦と日本	第一次世界大戦以後、日本敗戦までを通して「世界の中の日本」の動きを、政治・経済の流れとあわせて学ぶ。	21	定期考査 レポート等課題
	年次末 第6章 占領下の日本 第7章 日本の自立と経済成長 第8章 現代の世界と日本	大戦終結後の日本と世界について学び、敗戦後の日本社会の変革・復興、国際情勢の変化とあわせて現代の世界と日本が抱える諸問題について理解する。	36	定期考査 レポート等課題

4 観点別評価

114時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取りたり図表にまとめるなどしている	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理し、その知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点を踏まえ、定期考査の成績に加え、適宜課される課題等の提出物及び授業態度等を総合的に判断する。

学年	2 学年	系列	人文科学・総合ビジネス	教科・科目・単位数	地理歴史・日本史B・4 単位
使用教科書	改訂版 詳説日本史B (山川出版社)		副教材	最新日本史図表 三訂版 (第一学習社) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店)	

1 科目の目標

日本の歴史について、政治・社会・産業・文化などさまざまな視点から学び、合わせて、世界との関わりの中から「世界の中での日本の在り方」を考える視点を身につける。また大学受験を希望する生徒も多いことから、大学入試に対応できる実力を養う。

2 学習について

(1) 授業形態	教室での講義
(2) 学習方法	<p>① 予習・復習の方法 予習：教科書をよく読み、該当部分の政治・社会等の流れを理解する。 復習：ノート・資料集を読んで要点を押さえ、問題集等で理解度を確認する。</p> <p>② 授業における学習方法 教科書・資料集で該当箇所を確認しながら説明をよく聞く。板書事項を確実にノートにとり、必要に応じてメモを加える。</p> <p>③ 家庭学習のポイント等 さまざまなテーマにおける物事や人の考え方の流れを単純な線として捉えず、それぞれを横断的に結びつけながら理解する。</p>
(3) 担当者からのアドバイス	歴史は他の教科・科目の学習と関連するだけでなく、現在起こっているさまざまな出来事と密接に結びついている。新聞やニュースを見たり聞いたりして、興味・関心を広げよう。

3 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	Ⅰ 期中間 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	日本文化・社会の黎明期について学び、社会の発達と国家形成期の様相、ならびに海外とのかかわりを理解する。 律令国家の形成～王朝国家成立期について学び、古代日本国家の形成・発展と円熟した貴族社会の様相を詳しく考察する。	20	定期考査 レポートなど課題
	Ⅰ 期末 第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長	古代末～中世初期について学び、土地支配制度や政治の変革、および産業の発達をとおして中世社会の形成について理解する。 中世社会の確立期について学び、中世社会の実像や伝統文化の形成を理解し、あわせて当該期の対外関係を考察することにより、「アジアの中の日本」について考える。	24	定期考査 レポートなど課題
	Ⅱ 期中間 第5章 武家社会の成長 (続き) 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開	中世後期～近世初期について学び、統一政権の形成過程をとおして、中世から近世への転換について詳しく考察するとともに、成立期の近世社会について理解する。日本近世社会の確立期をとおして、台頭する庶民層と新たな文化の形成、および産業・社会の発達などについて学ぶ。	32	定期考査 レポートなど課題
後期	Ⅱ 期末 第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	近世後期の政治改革や、円熟した庶民文化について学び、あわせて幕藩体制の動揺と社会の変容について理解する。 日本近代国家の成立過程をとおして、立憲国家成立までの流れや近代産業・文化の発展について学ぶ。また日清・日露戦争をとおして、当該期の国際情勢を考察する。	28	定期考査 レポートなど課題
	年次末 第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	第一次大戦以降、日本の敗戦までをとおして「世界の中の日本」の動きを、世界的な政治・経済の流れとあわせて詳しく学ぶ。 大戦終結後の日本と世界について学び、敗戦後の日本社会の変革・復興、国際情勢の変化とあわせて、現代の世界と日本が抱える諸問題について理解する。	48	定期考査 レポートなど課題

4 観点別評価

152時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査の成績に加え、適宜課される課題等の提出物及び授業態度等を総合的に判断する。

学年	2 学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	地理歴史・地理 A ・ 3 単位
使用教科書	高等学校 新地理A (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)		副教材	最新地理図表GEO (第一学習社) サクシード地理 (啓隆社)	

1 科目の目標

1. 現代世界の地理的認識を深める
2. 地理的な見方・考え方を養う
3. 地図と地理情報を活用する技術を身に付ける

2 学習について

(1)授業形態

講義を中心に行うが、特に自然災害と関連させたグループワークを取り入れる

(2)学習方法

①授業における学習方法

系統地理と地誌の双方からのアプローチ — 地域の特色や地域差を認識する

地図、図表、写真、動画を利用した考察 — 分布や傾向の背景を多面的、多角的にとらえる

②家庭学習のポイント等

地図帳で地名を、資料集で事象を確認する

授業では時間が取れないので、各自問題演習を行う

(3)担当者からのアドバイス

常に傍らに地図帳や資料集を置き、テレビやインターネットを閲覧したり、新聞や雑誌、旅行パンフなどを開いた際に、地名や地理的事象を確認するように、この地道な作業以外に能力をアップする方法はありません

3 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 1 人間生活を取り巻く環境	(1)地球儀や地図からとらえる現代社会 (2)地形 (大地形と小地形) (3)気候と人々の生活	15	定期考査 白地図 レポート
	I 期末 2 資源と産業	(1)人々の生活を支える農牧業 (2)人々の生活を支える工業	18	定期考査 レポート
	II 期中間 3 生活と文化	(1)東アジア (2)東南・南アジア (3)西・中央アジア (4)アフリカ (5)ヨーロッパ・ロシア (6)北・南アメリカ (7)オセアニア	24	定期考査 レポート 白地図
後期	II 期末 4 地球的課題	(1)環境、資源・エネルギー問題 (2)人口、食料、都市問題	21	定期考査 レポート
	年次末 5 身近な地域の課題	(1)目的に合わせた地図の作成 (GISの活用) (2)地域調査	36	定期考査 レポート

4 観点別評価

114時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と問題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代社会の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像などの地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり纏めたりしている。	現代社会の地理的な諸課題についての基本的な事象や追求の方法を理解し、その知識を身につけようとしている。

5 評価方法

上記観点を踏まえ、以下を参考に総合的に評価する。

1. 定期考査 (年5回)
2. 提出物 (白地図・レポート)
3. 授業態度 (出欠状況・意欲・興味関心)

学年	2 学年	系列	人文科学・総合ビジネス	教科・科目・単位数	地理歴史・地理B・4 単位
使用教科書	新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)		副教材	最定期考査新地理図表GEO (第一学習社) サクシード地理 (啓隆社)	

1 科目の目標

1. 現代世界の地理的認識を深める
2. 地理的な見方・考え方を養う
3. 地図と地理情報を活用する技術を身に付ける

2 学習について

(1)授業形態

講義を中心に行うが、特に自然災害と関連させたグループワークを取り入れる

(2)学習方法

①授業における学習方法

系統地理と地誌の双方からのアプローチ — 地域の特色や地域差を認識する

地図、図表、写真、動画を利用した考察 — 分布や傾向の背景を多面的、多角的にとらえる

②家庭学習のポイント等

地図帳で地名を、資料集で事象を確認する

授業では時間が取れないので、各自問題演習を行う

(3)担当者からのアドバイス

常に傍らに地図帳や資料集を置き、テレビやインターネットを閲覧したり、新聞や雑誌、旅行パンフなどを開いた際に、地名や地理的事象を確認するように、この地道な作業以外に能力をアップする方法はありません

3 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 1. 地図と地理的技能 2. 自然環境	(1)地理情報と地図の活用 (2)地形 (大地形と小地形) (3)気候、環境問題	20	定期考査 白地図
	I 期末 3. 資源と産業	(1)農林水産業 (2)鉱工業 (3)第3次産業 (4)交通・通信・貿易	24	定期考査 レポート
	II 期中間 4. 人口と村落と都市	(1)人口、人口問題 (2)村落と都市 (3)都市・居住問題	32	定期考査 レポート
後期	II 期末 5. 生活と文化	(1)衣食住 (2)民族と宗教 (3)民族・領土問題	28	定期考査 レポート
	年次末 6. 世界の諸地域	(1)東アジア (2)東南・南アジア (3)西・中央アジア (4)アフリカ (5)ヨーロッパ・ロシア (6)北・南アメリカ (7)オセアニア	48	定期考査 白地図 レポート

4 観点別評価

152時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と問題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代社会の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像などの地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり纏めたりしている。	現代社会の地理的な諸課題についての基本的な事象や追求の方法を理解し、その知識を身につけようとしている。

5 評価方法

上記観点を踏まえ、以下を参考に総合的に評価する。

1. 定期考査 (年5回)
2. 提出物 (白地図・レポート)
3. 授業態度 (出欠状況・意欲・興味関心)

学年	2 学年	系列	自然科学	教科・科目・単位数	理科・物理基礎・3 単位
使用教科書	改訂 物理基礎 (東京書籍)		副教材	改訂 ニューアチーブ物理基礎 (東京書籍)	

1 科目の目標

物理的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然の現象に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てると共に、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

2 学習について

(1) 授業形態
主に教室での講義、各単元で基本的な演示実験などを行う。

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法
授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。
事前に、教科書の例題を解いておくことが、理解するうえで望ましい。

② 授業における学習方法
授業に真剣に参加すること。

③ 家庭学習のポイント等
課題研究でわからないこと、調べたい事があったとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。
日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス
物理基礎は計算的思考が大切なので、しっかりと予習や復習することが理解への近道となる。

3 学習計画

考査	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 運動とエネルギー (運動と表し方)	速度・加速度など基本的な物理量や有効数字について学習し、等速度・等加速度運動など物体の運動についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。	15	①, ②, ③, ④
	I 期末 運動エネルギー (運動の法則、仕事と力学的エネルギー)	力・運動の法則・様々なエネルギーについて学習し、エネルギー保存について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。	18	①, ②, ④
	II 期中間 熱 (熱とエネルギー)	熱について学習し、物体の温度や熱量保存の法則や熱と仕事、そしてエネルギーについて理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。	24	①, ②, ④
後期	II 期末 波 (波の性質、音)	波の性質について学習し、波の様々な現象や波の一種である音の現象について理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。	21	①, ②, ③, ④
	年次末 電気 (物質と抵抗、交流と電磁波)	生活に欠かせない電気の基礎である電気の性質、オームの法則、電気抵抗、交流の性質を学習し、電気についての理解を深め、科学的な自然観や、知識を身につける。	36	①, ②, ③, ④

4 観点別評価

114時間(48分授業)

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを明確に表現している。	物理的な事象・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・検証を科学的に探究する技能を身につけている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

学年	2 学年	系列	人文科学・総合ビジネス	教科・科目・単位数	理科・地学基礎・2 単位
使用教科書	高等学校 改訂	地学基礎 (第一学習社)		副教材	セミナー地学基礎 (第一学習社)

1 科目の目標

地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2 学習について

(1) 授業形態

主に教室での講義

(2) 学習方法

① 予習・復習の方法

授業で学んだところは知識や理解したことを定着させるために、できるだけ速やかに自分で問題集をもちいて、問題を解いてみる。事前に、教科書を読んでおくことが、理解するうえで望ましい。

② 授業における学習方法

習ったことをノートにまとめる。黒板を写すだけでなく、理解するように各自で工夫する。

③ 家庭学習のポイント等

わからないこと、調べたい事があったとき、解決する手段・方法をなどを知っておくようにする。日頃から、科学的な読み物や新聞の科学欄などに接して、科学的な教養を養うように努めるようにする。

(3) 担当者からのアドバイス

結果だけでなく、その結果にいたるプロセスが大切です。重要事項だけ丸暗記することのないようにしましょう。

3 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 宇宙における地球 (宇宙の構成・太陽・太陽系の中の地球)	宇宙の誕生と地球の形成について学習し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。	10	①②③④
	I 期末 活動する地球 (地球の姿・火山活動と地震)	プレートの分布と運動および運動にともなう大地の形成を理解する。火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。	12	①②④
	II 期中間 移り変わる地球 (地層や岩石と地質構造・地球環境と生物界の変遷)	地層が形成されるしくみと地質構造について理解する。古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。	16	①②③④
後期	II 期末 大気と海洋 (地球の熱収支・大気と海洋の運動)	大気と海洋の熱収支について理解する。大気の大循環と海水の運動およびそれらによる熱の輸送について理解する。	14	①②④
	年次末 地球の環境 (地球環境の科学・日本の自然環境)	地球の環境の変化を科学的に考察する。日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活との関わりを理解する。	24	①②③④

4 観点別評価

7 6 時間(48分授業)

① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 観察・実験の技能	④ 知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中でとらえるなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、自称を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、定期考査、課題レポート、授業への意欲等、総合的に判断する。

学年	2 学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・体育・2 単位
使用教科書	現代高等保健体育改訂版(大修館書店)		副教材	なし	

1 科目の目標

心と体を一体として捉え、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。
健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態
一斉展開授業及び種目選択授業

(2) 学習方法
①予習・復習の方法
なし
②授業における学習方法
自己の健康管理に注意し、けが防止対策を万全にする。指定の体育着、シューズを着用すること。貴重品の管理を行うこと。
③家庭学習のポイント等
特になし

(3) 担当者からのアドバイス
健康・安全や運動について理解し、運動を合理的に実践する能力を身に付けてほしい。
また、生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付けてほしい。

3 学習計画

考査	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 オリエンテーション1 体づくり運動 3 陸上競技 (50m、100m) 6	年間計画の把握 体ほぐし運動	10	記録計測
	I 期末 陸上競技10 体育理論 2	短距離走・走り幅跳び・円盤投げ/種目別に基礎技術応用 体ほぐしの意義と体力の高め方	12	記録計測 レポート
	II 期中間 屋外型球技種目選択16 (ソフトボール/サッカー/テニス)	種目別に基礎技術の応用	16	実技テスト
後期	II 期末 陸上競技6 体育理論 2 球技種目選択12 フットサル/バスケットボール/卓球 体づくり運動4	持久走 (2000m/1200m) 現代体育について調べ学習 種目別に基礎技術の応用・応用練習と試合 体ほぐし運動の応用	24	記録計測 レポート 実技テスト
	年次末 屋内型球技種目選択12 (バスケットボール/バレーボール/バドミントン) 体育理論 2	ルールを学ぶ・種目別に基礎練習とゲームを行う 運動技能の構造と運動の学び方	14	実技テスト レポート

4 観点別評価

76時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

5 評価方法

上記の観点を踏まえ実技試験に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

学年	2 学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	保健体育・保健・1 単位
使用教科書	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）		副教材	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館書店）	

1 科目の目標

健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について問題解決に役立つ基本的な事項についての知識を身に付ける。また生涯を通じて自らの健康を管理し、保持増進を図るために適切な生活行動を選択し実践する能力と資質を育てる。

2 学習について

- (1) 授業形態
 クラス一斉授業及びグループ学習
- (2) 学習方法
- ①予習・復習の方法
 日頃から自分を取り巻く環境や、社会における健康問題に目を向けておくこと。
- ②授業における学習方法
 一斉指導及び、グループによる課題解決学習等
- ③家庭学習のポイント等
 健康の保持増進を図るために、新聞記事やインターネットの最新情報を積極的に活用する。
- (3) 担当者からのアドバイス
 個人生活や社会生活における健康・安全について関心を持ち、課題の解決に向けて、意欲的に取り組んでほしい。また、生涯を通じて心身の健康を保持増進していくための適切な生活行動の選択と実践を身に付けてほしい。

3 学習計画

考査	単元名（学習項目）	学習内容（ねらい）	時間	評価方法
前期	I 期中間 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶	思春期の特徴について体と心の面から理解する。 性意識に関する男女の特性を理解する。 心身の発達は本人家族の健康が大きく影響することを理解する。 受精妊娠出産の一連の過程を理解する。 家族計画の意義や方法について理解する。	5	レポート ノート提出
	I 期末 加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 保健制度とその活用 定期考査	加齢に伴う心身の変化を形態面と機能面から理解する。 保健医療福祉の連携が重要になっていることを理解する。 保健制度を自分に関わるものと理解し、生かし方を学ぶ	6	レポート ノート提出 定期考査
	II 期中間 医療制度とその活用 医薬品と健康 ささまざまな保健活動や対策	医療機関の活動内容を理解し、医療費の仕組みも理解する。 医薬品の正しい使い方や様々な仕組みを理解する。 どのような保健活動や対策が行われていることを理解する。	8	レポート ノート提出
後期	II 期末 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き	汚染源と汚染物質、それによる健康被害について理解する。 水質汚濁の実態と対策を理解する。 健康被害の防止と環境対策を理解する。 ごみ処理と上下水道の整備の現状の仕組みと働きを理解する。 食品の安全を守るために、各々での役割について考える。	7	レポート ノート提出 定期考査
	年次末 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 定期考査	安全な食品を確保し環境を汚染しないための取り組みを考える。 働くことの意義や働き方の変化を理解する。 労働災害、職業病とは何かを理解する。 健康的な職業生活を送るために必要な取り組みを理解する。	12	レポート ノート提出 定期考査

4 観点別評価

38時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に楽手に取り組もうとしている。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらを表している。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

5 評価方法

上記の観点を踏まえ、定期考査の成績に加え、授業への意欲・関心・態度及び出席状況を含め総合的に判断し評価する。

学年	2 学年	系列	全系列	教科・科目・単位数	家庭・家庭基礎・2 単位
使用教科書	家庭基礎 (東京書籍)		副教材	ビジュアルクッキング (教育図書) 生活ハンドブック (第一学習社) 家庭基礎学習ノート (東京書籍)	

1 科目の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 学習について

(1) 授業形態 一斉授業
(2) 学習方法 ①予習・復習の方法 衣食住や福祉、消費生活、環境に関する情報収集をする。 ②授業における学習方法 授業と関連づけて自ら家庭生活を振り返り、その課題を理解するとともに、将来の生活環境の改善のために必要な取り組みについて考えながら意欲的に取り組む。 ③家庭学習のポイント等 授業を通して自らの家庭生活の課題を見だし、改善策を家庭で実践する。
(3) 担当者からアドバイス 自分や家族の生活について、日頃から興味・関心を持ち、授業学んだことを家庭生活の充実向上に役立てよう。

3 学習計画

考查	単元名 (学習項目)	学習内容 (ねらい)	時間	評価方法
前期	I 期中間 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 子どもと共に育つ	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義 子どもの発達と保育、親として共に育つ これからの保育環境	10	提出物 授業・実習の様子
	I 期末 衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する これからの衣生活 製作 (三角巾)	12	定期考查 授業・実習の様子 提出物 作品の評価
	II 期中間 食生活をつくる	食生活の課題について考える、食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生、生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 (実習2回)、これからの食生活 (ホームプロジェクト：食品表示調査)	16	授業・実習の様子 提出物
後期	II 期末 高齢社会を生きる 共に生き、共に支える 経済生活を営む	高齢者を理解する、高齢者の心身の特徴、これからの高齢社会 私たちの生活と福祉、社会保障の考え方、共に生きる 現代の消費社会、消費者の権利と責任、 これからの消費生活と環境	14	定期考查 提出物 授業・実習の様子
	年次末 住生活をつくる 自分らしい人生をつくる 生活設計	住生活について考える、住生活の計画と選択 これからの住生活 人生をつくる、家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会、 生活を設計する	24	提出物 授業・実習の様子

4 観点別評価

76時間(48分授業)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、家庭生活の充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。	自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を見だし、その解決を目指して思考を深めて工夫したり、創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。またそれを的確に表現している。	自分や家族・家庭、地域の生活に関わる課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	自分や家族・家庭、地域社会の役割を理解し、生活の充実向上に向けて必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。

5 評価方法

上記の観点をふまえ、各考查成績、提出物、実習への取り組みなどを総合して評価する。